

情報収集提供業務に関しては、主要な畜産物、野菜、砂糖及びその原料作物並びにでん粉及びその原料作物の生産及び流通に関する情報について、収集、整理及び提供を行っている。平成30年度においては、当機構業務であるこれら品目の生産者の経営安定対策、需給調整・価格安定に関連したテーマを中心に、農政上の重要課題である収益力や生産基盤の強化等に向けた取り組みなど、調査テーマを重点化して定め、業務を実施した。

また、国民消費生活の安定に寄与するよう、農畜産物に関する知識の普及等、消費者の関心の高い情報を積極的に提供した。

1 情報の収集

(1) 国内

価格・需給データ、需給関連の調査分析報告、優良事例及び地域情報等について、機構職員や専門調査員により収集・整理・分析した。

(2) 海外

機構職員による価格・需給データ、需給関連の調査分析報告及び優良事例等の調査等を基本に、国際会議等への参加による情報収集に加え、コンサルタントの活用等により収集・整理・分析した。

2 情報の提供

(1) 定期刊行物による提供

月報「畜産の情報」、「野菜情報」及び「砂糖類・でん粉情報」の発行による提供とともに、別冊統計資料（畜産、野菜、砂糖類・でん粉）を年1回発行した。

(2) ホームページによる提供

定期刊行物に加えて、年報「畜産」、「国際情報コーナー」、「国内統計資料」及び「海外統計資料」への掲載による提供を行った。

(3) メールマガジンによる提供

メールマガジンにより、各情報誌の発行情報、海外情報、a l i cセミナー開催案内などの迅速な提供を行った。

(4) a l i cセミナーなどによる提供

本部におけるa l i cセミナーや地方事務所における地域情報交換会などにおいて、生産、流通、消費、制度などに関する情報のほか、海外現地調査に関する情報等について、利用者のニーズに応じた情報提供を行った。

3 主要な提供テーマ

(1) 畜産

- ・離島の繁殖経営における生産性向上の取り組み～農業生産法人有限会社下地畜産（宮古島市）の事例～
- ・酪農現場における農場H A C C PとJ G A P認証の取得・活用の取り組み～(株) Kalm角山を事例として～
- ・己を知り、他者と比較して経営改善に役立てる～P i g I N F O参加のススメ～
- ・第2回「和牛甲子園」の開催について
- ・特色ある地域資源を活用した地域ブランド牛の取り組み

- ・ T P P 11協定および日 E U ・ E P Aにおける代表的な畜産物の輸出見通し
- ・ 生産基盤強化と働き方改革に向けた取り組み
- ・ ブラジルにおける採卵鶏を中心としたアニマルウェルフェアの取り組みに関する一考察
- ・ インドネシアのブロイラー産業の動向～日本への輸出の可能性～
- ・ 米国の牛内蔵肉の生産・輸出動向～タン・ハラミを中心に～
- ・ ニュージーランドの牛肉生産・輸出動向

(2) 野菜

- ・ 北海道産農産物の安定輸送力確保に向けた取り組みについて
- ・ 野菜のグローバル G A P 認証取得の意義と課題
～ J A くるめサラダ菜部会と坂上農園を事例として～
- ・ 国産野菜の競争力強化につながる取り組み
- ・ 大型施設園芸を主体とした企業の農業参入による荒廃農地の利活用
～公益財団法人北杜市農業振興公社の取り組み～
- ・ 加工用野菜大規模経営の現状と課題
～青森県の農事組合法人舩作興農組合を事例に～
- ・ 中国における輸出向け野菜の生産・加工・輸出状況
～対日輸出に力を入れる企業の事例を中心に～
- ・ 韓国のパプリカの生産、流通および日本への輸出動向
- ・ ニュージーランドにおけるかぼちゃの生産および輸出動向
- ・ グアテマラにおけるブロッコリーの生産・流通および輸出動向

(3) 砂糖

- ・ 幼児期の間食に関する現状と保護者の意識
- ・ 品種の経年評価を通じたサトウキビの長期的低収要因の検証
- ・ てん菜直播栽培の安定化技術と海外最新技術
- ・ J A 中札内村におけるてん菜生産性向上の取り組み
～栽培技術を浸透させ道内トップの単収を達成～
- ・ ブラジルのサトウキビ・砂糖の生産見通し
- ・ 外部環境が激変する中で変革期を迎えた豪州の砂糖産業
～生産動向と対日輸出見通しを中心に～

(4) でん粉

- ・ でん粉原料用ばれいしょ生産費からみたコスト低減対策
- ・ U A V (無人航空機) を利用した農作物の生育診断
～マルチスペクトルカメラを用いたばれいしょ圃場のセンシング～
- ・ 津別町におけるばれいしょ生産などの省力化の取り組み
～ J A つべつおよび有限会社だいちの事例～
- ・ でん粉原料用かんしょ生産を中心とした営農モデルの確立に向けて
～鹿児島県阿久根市の若手大規模生産者慶越雅弘氏を事例として～
- ・ でん粉糖業の発展が中国のトウモロコシ消費に与える影響

4 消費者代表との意見交換会

中期計画において、「消費者等への情報の提供については、国民消費生活の安定に寄与するとともに機構の業務運営に対する国民の理解を深める観点から、消費者等の関心の高い農畜産物や機構の業務に関連した情報を積極的に分かりやすい形で発信するため、消費者等との意見交換会等を通じた双方向・同時的な情報や意見の交換を行うことにより、農畜産物や機構業務に関する消費者等の理解の促進を図る」とされていることを踏まえ、以下のとおり消費者代表との意見交換会を実施した。

開催日	分野	内容等
平成 30 年 9 月 14 日 (金)	畜産 (酪農)	チーズの製造現場を見学し意見交換を行うことにより、国産チーズの製造技術、品質、普及活動、機構の事業を含む国産チーズの競争力強化対策への理解の促進を図るため、現地意見交換会を山梨県で開催。[たべる J A (じゃ) んやまなし、雪印メグミルクチーズ研究所]
平成 30 年 11 月 6 日 (火)	野菜	野菜の生産現場等を訪問し、生産者などと意見交換を行うことにより、野菜農家の実態や流通及び機構業務について理解の促進を図るため、現地意見交換会を千葉県で開催。[丸朝園芸農業協同組合野菜選果場、管内のにんじんのほ場、花き集出荷施設フラワードーム、農産物直売所「しよいか〜ご千葉店」]

5 広報誌の発行、「消費の道しるべ」等への記事掲載及びセミナーの開催

機構の各業務や業務を通じて得られた様々な情報について、広報活動をはじめとした様々な手段・方法で広く発信し、国民の皆様を知っていただけるよう、広報誌「a l i c」を発行（隔月）するとともに、セミナーを開催した。

また、一般財団法人消費科学センターが発行する「消費の道しるべ」及び全国地域婦人団体連絡協議会が発行する「全地婦連」に、消費者の関心が高いと考えられる事項についての記事を掲載した。

(1) 広報誌「a l i c」の発行

発行月	主な掲載内容
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発とともに成長が続く清涼飲料水～生産量は右肩上がりです。日本人が毎日 500ml を約 1 本飲んでいる計算に～（一社）全国清涼飲料連合会会長 小郷三朗氏～ ・サラリーマン時代より稼げる農業経営に～茨城県銚田市 田口真作氏～ ・サトウキビで島に多くの人を呼びたい～鹿児島県喜界町 野間弘也氏～
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の養豚生産者のリーダーとして養豚復興に貢献～平成 29 年度農林水産祭の畜産部門で天皇杯受賞～（有）香川畜産 代表取締役 香川雅彦氏～ ・国産たまねぎを使った通年加工に成功～株式会社グリーンズ北見～ ・畜産のいろいろ 鶏むね肉ってすごい！

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・料理を通じて人が生きるための楽しさを見つける～高齢化社会に向けて健康に過ごすためのアドバイス～江上料理学院院長 江上栄子氏～ ・土足禁止の牛舎で飼養される子牛～衛生証明書付き黒毛和子牛出荷の取り組み～ ・でん粉原料用かんしょにかける夢～鹿児島県阿久根市 けいごえ農園 慶越雅弘氏～
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農が盛んな千葉県で循環型酪農に取り組むとともに、自家製乳製品の製造販売による6次産業化を実現 (有)高秀牧場 代表取締役 高橋憲二氏 ・肉牛経営の持続的発展に向けた創意工夫～北の大地で育む羽田野親子のこだわり～ ・消費者代表の方々との現地意見交換会を開催～国産チーズの競争力強化～
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年のごあいさつ 独立行政法人農畜産業振興機構 理事長 佐藤一雄 ・夢はでっかく根は深く！たいよう農園は、国を耕す会社です～愛媛県大洲市たいよう農園～ ・鶏むね肉消費をけん引するサラダチキンの消費動向～平成29年度鶏肉調製品の消費実態調査の結果から～
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ITを活用した効率的な加工・業務用国産野菜の提供～岡山県倉敷市の倉敷青果荷受組合 倉敷青果荷受組合理事長 富本尚作氏～ ・生産者と企業が二人三脚で創りあげる「りんご和牛信州牛」 ・徳之島におけるメリクロン苗利用による種苗供給～さとうきび優良種苗確保の取り組み～

(2) セミナーの開催

実施月	主なテーマ
5月	「ベトナムの野菜の生産、流通および輸出の現状」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 青沼悠平 「台湾のえだまめの生産、流通および輸出の状態」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 山下佳佑 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 伴加奈子
6月	「中国の養豚をめぐる動向と環境規制強化の影響」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 三原 互 「ブラジルの豚肉生産・輸出動向」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 佐藤宏樹
7月	「和菓子産業の現状と未来」 全国和菓子協会 専務理事 藪 光生氏
9月	「野菜の消費拡大に向けて～野菜の持つ機能性と新たな野菜の売り方を考える～」 デザイナーフーズ(株)代表取締役 丹羽真清氏
11月	「次世代を担う若手農業者の姿～食料・農業・農村の動向報告より～」 農林水産省大臣官房広報評価課 情報分析室長 伊佐 寛氏
12月	「米国の牛内臓肉の生産・輸出動向～タン・ハラミを中心に～」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 野田圭介 「パタゴニア産牛肉の生産動向と対日輸出拡大可能性について」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 佐藤宏樹
1月	「ブラジルのサトウキビ・砂糖の生産見通し」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 坂上大樹 「変革期を迎えた豪州の砂糖産業～生産動向と対日輸出見通しを中心に～」 独立行政法人農畜産業振興機構 特産業務部砂糖原料課 竹谷亮佑

3月	「急拡大する中国牛肉消費の実態」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 三原 互 「カナダの牛肉輸出見通し～生産の現状を中心に～」 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 渡辺陽介
----	--

(3) 「消費の道しるべ」への掲載

掲載月	掲載内容
7月	あなたの知らない野菜の世界～加工・業務用野菜を支える仕組み
8月	野菜で水分補給～野菜の生産を支える仕組みの紹介～
9月	好調なサラダチキンの消費動向～平成29年度鶏肉調製品の消費実態調査の調査結果より～
10月	国内の豚肉生産と養豚経営への支援について
11月	ばれいしょでん粉について
12月	地域の酪農を支える「酪農ヘルパー」
1月	指定野菜価格安定対策事業について
2月	氷砂糖のあれこれ
3月	農畜産物のこと、もっと知ってみませんか？～広報誌・イベントなどのご案内～

(4) 「全地婦連」への掲載

掲載月	掲載内容
6月	a l i c (エーリック)は何をしている組織？
9月	紅茶と砂糖の出会い～イギリスのコーヒー・ハウスにて～
2月	肉用牛生産現場から～畜産農家の資金調達を支える仕組み～

6 フェイスブックの開設

機構の業務活動について広く消費者等の理解を得るとともに、機構の認知度を向上させるツールとして、フェイスブックを新たに平成30年8月24日より開設し、随時情報発信を行った。